

カナダ金融政策（2022年6月）

2会合連続となる0.5%ポイントの利上げ

2022年6月2日

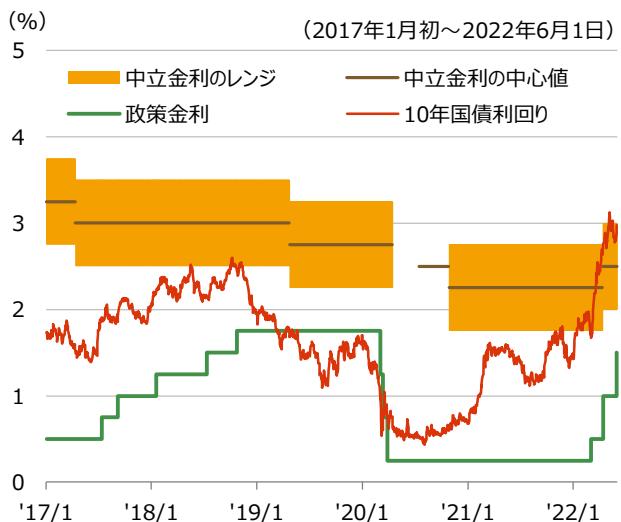
必要に応じて「更に力強い措置」を講じる用意

カナダ銀行は6月1日（現地）に金融政策決定会合を開催し、政策金利を1%から1.5%に引き上げることを決定しました【図1】。利上げは今年3月から3会合連続、利上げ幅は前回と同じ0.5%ポイントです。

声明文はインフレへの懸念を強調する内容でした。具体的には、①5月に発表された4月消費者物価指数（前年同月比）は+6.8%とカナダ銀行の予測を大きく上回っていること（前回4月会合時点では4-6月期を前年同期比+5.8%と予測していた）【図2】、②消費者物価指数は短期的に一段と加速する可能性が高いこと、③高インフレが定着するリスクが高まっていること、などを指摘しています。

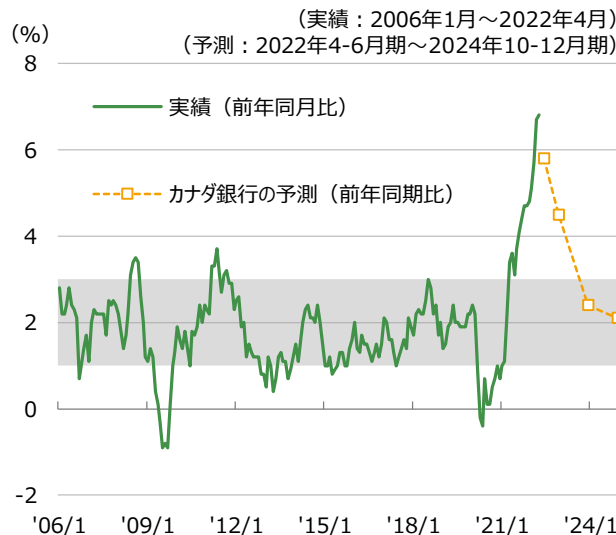
こうした状況下、カナダ銀行は「政策金利を一段と引き上げる必要があると判断し続けている」とした上で、「2%のインフレ目標を達成するために、必要に応じて更に力強い措置を講じる用意がある」と述べています。すでに0.5%ポイントの利上げは「力強い措置」と言えますが、「更に」を追加したことでインフレ抑制への姿勢を一層強めたと解釈できます。「更に」は、利上げ幅を0.75%ポイントに拡大させるといふより、0.5%ポイントの利上げを続けることを意図している可能性が高いと思われます。市場は従来、次回7月会合での0.5%ポイント利上げの後、9月会合からは利上げ幅が0.25%ポイントに縮小すると想定していましたが、声明文を受けて9月も0.5%ポイントの利上げが続くことをより強く意識するようになりました。その通りであれば、政策金利は9月に中立金利の中心（2.5%）に到達することになります。

図1：カナダの各金利



※中立金利はカナダ銀行の推計値（新型コロナ発生直後は一時的に公表が停止されていた）（出所）カナダ銀行、ブルームバーグ

図2：カナダの消費者物価指数



※陰影部はカナダ銀行のインフレ目標レンジ
※予測は2022年4月時点（出所）カナダ統計局、カナダ銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

この資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定の商品の投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

金融商品取引法に基づきお客様にご留意いただきたい事項を以下に記載させていただきます。

むさし証券の概要

商号等：むさし証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

リスクについて

国内外の金融商品取引所に上場されている有価証券(上場有価証券等)の売買等に当たっては、株式相場、金利水準等の変動や、投資信託、投資証券、受益証券発行信託の受益証券等の裏付けとなっている株式、債券、投資信託、不動産、商品等(裏付け資産)の価格や評価額の変動に伴い、上場有価証券等の価格等が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 上場有価証券等の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合、上場有価証券等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 新株予約権、取得請求権等が付された上場有価証券等については、これらの権利を行使できる期間に制限がありますのでご注意ください。

◎ 上場有価証券等が外国証券である場合、為替相場(円貨と外貨の交換比率)が変化することにより、為替相場が円高になる過程では外国証券を円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では外国証券を円貨換算した価値は上昇することになります。したがって、為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。

※ 裏付け資産が、投資信託、投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等である場合には、その最終的な裏付け資産を含みます。

※ 新規公開株式、新規公開の投資証券及び非上場債券等についても、上記と同様のリスクがあります。

手数料等諸費用について

当社取り扱いの商品等にご投資いただく場合

各商品毎の所定の手数料をご負担いただく場合がありますが、商品毎に異なるため、ここでは表示することができません。

また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

投資信託につきましては、手数料の他、信託報酬等・その他の費用(監査費用、運営・管理費用等)等を御負担いただきますが、これらの費用等は、事前に計算できませんので表示しておりません。

当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

【広告審査済】